赤井　正二教授　略歴と業績

Ⅰ．略　　歴

1951年８月　和歌山市に生まれる
1975年　早稲田大学第一文学部哲学専攻卒業
1987年３月　一橋大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学
東京理科大学嘱託講師　等を経て
1987年４月　立命館大学産業社会学部助教授
1994年４月　立命館大学産業社会学部教授
2017年３月　学校法人立命館立命館大学定年退職
2017年４月　立命館大学名誉教授

（主な学内役職歴）

1991年４月～1992年３月　産業社会学部学生主事
1994年４月～1995年３月　産業社会学部調査委員長
1996年４月～1997年３月　産業社会学部学生部主事
2000年４月～2002年３月　社会学研究科主事
2002年４月～2003年３月　産業社会学部（社会学研究科）研究委員長
2004年４月～2005年３月　産業社会学部入試主事
2009年４月～2012年３月　学校法人立命館総合企画室副室長
2012年４月～2015年３月　学校法人立命館総合企画室室長

Ⅱ．専門分野

専門分野　思想史，社会学
担当科目
学位　社会学修士（一橋大学，1978年３月）
研究課題　1900年前後の社会文化変動と社会思想の研究，近代日本における旅行文化の形成と展開の研究，近代的人間観に関連する思想史的研究，関西文化の研究

Ⅲ．主な研究業績

著　　書

１．（分担執筆）『ヘーゲルの思想と現代』（汐文社，1981年）181-207頁
２．（分担執筆）『西洋哲学史概説』（岩崎允胤・鯵坂真編，有斐閣，1986年）462-474頁
３．（分担執筆）『労働と生活』（富沢賢治編，世界書院，1987年）199-226頁

4．（分担翻訳）『ベルリン1990』（東ドイツの民主化を記録する会編，大月書店，1990年）207-211頁
5．（分担執筆）『転換期の社会と人間』（佐々木嬉代三・中川勝雄編，法律文化社，1996年）139-156頁
6．（分担翻訳）『ハーバーマスとアメリカ・フランクフルト学派』（マーティン・ジェイ編，竹内真澄監訳，大月書店，1998年）81-121頁
7．（分担執筆）『世紀の転換と社会学』（井上純一・林弥富編著，法律文化社，2000年）167-191頁
8．（共編著）「序章「見えない壁」の向こう側」（『メディア社会の歩き方』世界思想社，2004年）
9．（共訳）『テクストとコンテクスト』（ユルゲン・ハーバーマス編著，佐藤嘉一他訳，晃洋書房，2006年）１-26・165-178頁
10．（単著）『旅行のモダニズム―大正昭和前期の社会文化変動―』（ナカニシヤ出版，2016年）全334頁

論　文

1．（単著）「近代国家の現実性と個人の陶冶―ヘーゲル国家論の一考察―」（『唯物論研究』第１号，汐文社，1979年）196-213頁
2．（単著）「批判的政治意識と現代文化」（『唯物論研究』第９号，白石書店，1983年）60-71頁
3．（単著）「啓蒙的理性の可能性もしくはコミュニケイション合理性」（『季刊 思想と現代』第３号，白石書店，1985年）36-46頁
4．（単著）「近代社会の倫理的批判とその構造」（『一橋研究』10巻３号，1985年）１-17頁
5．（単著）「６－２「現代の文化と人間」」（立命館大学産業社会学部共通教材編集委員会編，『現代と社会』，法律文化社，1987年）263-274頁
6．（単著）「文化普遍主義と対抗文化」（『立命館産業社会論集』25巻１号，1989年）127-143頁
7．（単著）「哲学的コミュニケイション論の論点―激動のさなかで―」（『季刊・思想と現代』第22号，白石書店，1990年）167-170頁
8．（単著）「「豊かな管理社会」のなかでの妥協と葛藤」（『立命館教育科学研究』１号，1991年）21-26頁
9．（単著）「生きられる文化としての社会科学」（『窓』12号，窓社，1992年）180-195頁
10．（共著）「現代青年・学生の文化意識」（『現代青年・学生の意識構造に関する総合的研究』，立命館大学教育科学研究所刊，1993年）39-53頁
11．（単著）「コミュニケーション研究におけるメディアと公共的社会関係」（『立命館産業社会論集』29巻３号，1993年）49-67頁
12．（単著）「読み書き能力（Literacy）の特異性をどうとらえるか― D. オルソンの場合―」（『立命館教育科学プロジェクト研究シリーズⅣ』，1996年３月発行）107-112頁
13．（単著）「市民文化の構造変動」（『転換期の社会と人間』，法律文化社，1996年）139-156頁
14．（単著）「地域公共圏とコミュニケーション・メディア複合」（『AURORA』６巻，伊丹市都市政策研究所，1996年）11-16頁
15．（共訳）「市民社会概念の生成・衰退・再構築と今後の研究のための指針」（アンドリュー・アラート，ジェーン・コーエン著，『立命館産業社会論集』32巻４号，1997年）107-119頁
16．（単著）「駅の伝言板―都市コミュニケーションの小道具―」（『立命館教育科学研究』11号，1997年）123-135頁
17．（単著）「「市民社会」の語られ方」（『立命館産業社会論集』34巻１号，1998年））61-74頁

18. （単著）「旅行の近代化と「指導機関」」（『立命館産業社会論集』44巻１号，2008年）99-115頁
19. （単著）「「旅行団」と「山岳講演会」―大正期における旅行文化の形成―」（『立命館産業社会論集』44巻３号，2008年）21-40頁
20. （単著）「旅行ガイドブックのなかの「見るに値するもの」―『公認東亜案内』日本篇と『テリーの日本帝国案内』の1914年―」（『立命館産業社会論集』45巻１号，2009年）151-170頁
21. （単著）「「趣味の旅行」と「モダン・ライフ」―大正・昭和前期における旅行文化の展開と旅行論―」（『立命館産業社会論集』46巻４号，2011年）１-20頁
22. （単著）「木下杢太郎の思想展開におけるジンメルの芸術論」（『立命館産業社会論集』47巻３号，2011年）１-20頁
23. （単著）「旅行ガイドブックと旅行の「質」」（『はじめてのメディア研究―「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで―』，世界思想社，2012年）258-265頁
24. （単著）「木下杢太郎の小林清親論，あるいは思想としての「都会趣味」」（『立命館産業社会論集』49巻１号，2013年）１-21頁
25. （単著）「『交通東亜』とその周辺―戦争末期の旅行規制をめぐる軋轢―」（『立命館産業社会論集』51巻２号，2015年）34-56頁

Ⅳ．社会における活動等

1988年７月16日　『立命館土曜講座』「趣味と欲望の社会学」

1991年11月16日　『立命館土曜講座』「成長の条件としての現代文化」

2005年１月19日　『立命館大阪オフィス講義』「アナログ・デジタル再考―映画以前のおもちゃたちから学ぶ―」

2016年10月24日　立命館大阪プロムナードセミナー『大阪・京都文化講座（後期）』「昭和初期関西の登山ブームと「旅行団」」

以上